２０２３年「未来」名古屋大会　短歌における平成のトピック　　大井　学

１．　消失した受賞者

平成元年「短歌研究新人賞」。応募総数五二〇篇（有効総数四六三篇）

受賞者「久木田真紀」　受賞作「時間（クロノス）の矢に始めはあるか」

　春の洪水のさきぶれ昧爽の噴水の秀（ほ）に濡れるわが胸

２．　「ニューウェーブ」

俵万智『サラダ記念日』1987.05（S62）

荻原裕幸「現代短歌のニューウェーブ」1991.07.23（H03）

　言葉ではない！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！　ラン！　加藤治郎

　「耳で飛ぶ象がほんとにいるのならおそろしいよねそいつのうんこ」　穂村　弘

　この街のすべてがぼくのC♯mの音にとざされている　西田政史

３．　穂村弘による新しい歌論の萌芽

「〈わがまま〉について」「短歌」1998.09（H10）特集「文語とくらべる　口語を生かす」

「宙（そら）の知恵の輪」「短歌」1999.02（H11）　特集「女流短歌の現在（いま）」

　工事中のランプをぬすんできてしまう祐一が猛暑のトビラをたたく　早坂　類

　収穫祭　稜線ちかく降りたちてbetweenやupやawayを摘めり　大滝和子

　廃村を告げる活字に桃の皮ふれればにじみゆくばかり　来て　東　直子

４．　インターネットと短歌

加藤治郎「ｉ（インターネット）歌人は短歌を豊かにするか」（H14）角川「短歌年鑑」二〇〇二年版「ネット短歌／ネット歌人」

５．　総合誌創刊ラッシュ第二派と「賞」の新設

①「短歌朝日」　1997.07（H07）創刊（隔月刊）

②「短歌WAVE」と北溟短歌賞　2002.07（H14）

③「短歌ヴァーサス」と「歌葉新人賞」　2003.05（H15）

④「短歌研究」創刊八〇〇号記念「うたう作品賞」　2000.12（H12）

６．　発表の場の多様化

①「ネットプリント」の展開　2011年頃～

②「うたつかい」　2011.09（H23）刊行　2021.09（R03）第37号をもって終刊

③　学生短歌会の興隆と「文学フリマ」

大辻隆弘「学生短歌の頼もしさ」　二〇一二（平二十四）年五月「現代短歌新聞」

2009.05（H21）服部真里子・土岐友浩・吉岡太朗・平岡直子等「町」

2011.06（H23）吉田恭大・千種創一等「ami.me」

2014.05（H26）阿波野巧也・佐々木朔等「羽根と根」